



やまざとの風

～心を込めた「あいさつ」「校歌」 輝く「笑顔」～

山里中学校だより

2025. 7. 18 号①

文責 小森

長崎っ子の心を見つめる教育週間

6/28(水)から7/5(土)の一週間、「長崎っ子の心を見つめる教育週間」でした。本校では校長先生による「命の講話」、全校生徒による「生徒総会」、講師の方による「性教育講演会」「被爆体験講話」等を実施し、たくさんの学びがありました。7/5(土)は「授業参観」「学級懇談会」は多くの参観者がありましたが、この期間中、多くの方が本校に来校され、生徒たちも改めて「命」について深く考えた一週間となりました。その様子をご紹介します。

「生徒総会」【6/27(金)】



山里中学校をさらに良くするため、生徒会主催の「生徒総会」が行われました。これまで生徒会執行部や学級委員を中心に話し合いや学級討議を重ねこの日を迎えました。本年度は、体育館で開催し、その場で賛成・反対の意見を直接話し合うことができました。近年、コ

ロナ禍の中、リモートで行われていたもので新鮮でした。一つ一つを生徒会執行部や専門委員長の人たちが丁寧に回答していきま



す。「できること」と「できないこと」はありますが、生徒たちの自治活動を尊重しながら進めてまいります。

「命の講話」【6/30(月)】

※抜粋



先週金曜日から、山里中学校では「長崎っ子の心を見つめる教育週間」が始まりました。この週間は、今から20年以上前に長崎県内で起きた小中学生による痛ましい事件をきっかけにスタートしたものです。人の命を奪うというあってはならない出来事に、「どうしてこんなことが起こったのか」「どうすれば防げたのか」と多くの人が考えました。そして行き着いたのが、「地域の子どもは地域で守り、子どもたちの心を育てよう」という思いでした。

この教育週間の目的は、「いのちを輝かせて生きる心豊かな長崎っ子の育成」です。そのために、①命や思いやりを大切にする心、②夢や志をもつ姿勢、③あいさつやマナーの向上を重視しています。今年度は、「いのちを輝かせて生きようとする心情の育成」と「情報モラルの理解の深化」が重点となっており、道徳の授業や被爆体験講話などを通して、命の尊さや他者への思いやりについて深く考える機会が設けられています。

みなさんは、自分にとって一番大切なものは何だと思いますか。私たちが当たり前のように過ごしている日々は、長い命のバトンの中で今ここにある奇跡です。命はなくしてしまえば取り戻すことができません。だからこそ、日々の生活の中で、自分や周りの人の命を大切にする行動を取ることが重要なのです。では、どうすれば命を大切にできるのでしょうか。その一つが「思いやりのある行動」です。友だちに優しい言葉をかける、困っている人を助ける、悩みを抱えたときは誰かに相談する...そんな日常の行動こそが、命を守り合うことにつながります。

ここで紹介したいのが、「ヤマアラシのジレンマ」という話です。寒い日に暖を取ろうとして近づいた2匹のヤマアラシが、お互いのトゲで傷つけ合い、離れれば寒さに耐えられず...何度も試行錯誤して、

ようやくお互いを傷つけずに暖を分け合える距離を見つけるとい話です。この話は、人間関係にも通じています。近づきすぎて傷つけ合ったり、距離を取りすぎて孤独を感じたり…。中学生の皆さんも、友だちや家族との関係で悩むことがあるかもしれません。

そんなとき大切なのは、「思い込みから自由になること」と「相手の気持ちを尊重すること」です。「あの人はこうに違いない」と決めつけるのではなく、「まだよく知らない」という前提で接してみること。相手の言葉や行動の背景を考え、違う意見も「そんな考え方もあるのか」と受け入れることが、関係を柔らかくしていく第一歩です。

さらに、学校や教室を「心理的に安全な場所」にしていくことも大切です。安心して自分の考えや悩みを話せる場所、仲間に馬鹿にされたりせずに受け入れられる空間があれば、人はより前向きに、豊かな心で過ごすことができます。そのためには一人一人が、日々の言動を見直し、お互いにリスペクトをもって接していくことが必要です。

山里中学校では、日常生活の中でもすでに多くの取組を実践しています。例えば、「山中あいさつ」では、「あ」相手の目を見て、「い」いつも笑顔で、「さ」先にあいさつ、「つ」伝わる声を心がけています。また、中総体での「感謝の気持ちをもってプレーする」姿勢や、地域の方々との交流、ボランティア活動への参加、サイレントタイムを活用した学習習慣の定着など、さまざまな形で「心の教育」を進めています。生徒会も「大切な人・大切なものを当たり前前に大切にできる学校」を目指して、「愛〜♡が山里をつくる〜」というテーマを掲げています。これは、まさに教育週間のめあてと重なるものです。

最後に、「夢・憧れ・志をもってがんばる長崎っ子」としての姿を目指してほしいと思います。あいさつを大切に、年上を敬い、周囲の人のために行動し、人の話をよく聞き、自分の言動に責任をもって取り組む。これは特別なことではなく、日常生活の中の「当たり前」を丁寧に積み重ねることです。

この教育週間を、自分の命、他人の命、そして心の在り方を見つめ直す大切な機会としてほしいと思います。そしてこれからも、「夢・憧れ・志」をもって努力し、思いやりと郷土愛に満ちたたくましい山里中生として、一步ずつ成長していきましょう。

「性教育講演会」【7/2（水）】

一般社団法人長崎県助産師会 森川 寿和美先生に来校していただき、1年生を対象とする「性教育講演会」を実施しました。思春期の男女のからだの違いや、「LGBTQ」など具体的な言葉の説明もあり、性に対する正しい知識を身に付けてほしい、そして、命の誕生、命の尊さを学ぶことで自他を大切にすることを養ってほしいという森川先生の思いが伝わってきました。講演会の後半では、妊婦疑似体験を行い、大変さを体感するとともに、母のありがたさと感謝の気持ちをもつ機会となりました。



「被爆体験講話」【7/3（木）】



講師に城臺 美彌子（じょうだい みやこ）さんを本校にお迎えしました。城臺さんは、当時6歳。爆心地より2.4km離れた山陰の立山町で被爆しました。金比羅山中腹にあった防空壕で数日過ごし、旧市内が真っ赤に焼けていくのを見たそうです。被爆体験者の講話を通して、原爆被爆の実相を知るとともに、戦争の悲惨さ及び平和の大切さや命の尊さについて考える機会となりました。

学校ホームページの「学校行事【学校生活】」でも活動の様子を公開しております。

<https://www.nagasaki-city.ed.jp/yamazato-j>